

第9回徳島市男女共同参画推進ネットワーク 議事録(概要)

日 時 令和8年 7 月27日(月) 15:00～16:30
場 所 徳島市役所8階 庁議室
出 席 者 17名(委員名14名、事務局3名)

【 次 第 】

- 1 開会
- 2 新委員紹介
- 3 議題
 - (1) 令和7年度の取組状況について
 - (2) 令和8年度事業について
 - (3) その他
- 4 閉会

【 意見交換・質疑応答の概要 】

A 委 員 : 組織における男女共同参画啓発事業の企業等における経営者、管理職社員に対してのリーフレット等の配布というところで、毎月会報誌を出しているので、リーフレットと一緒に配布し、周知することは可能だと思う。また、女性起業家育成支援セミナーについては、女性起業家を目指す人や起業したばかりの人が集まり、フリートークなどで学べる団体と連携するのも一案だと思う。

B 委 員 : 令和7年度のロールモデルカフェは、短期大学部の大学生が殆ど参加し、ロールモデル 2 名のプレゼンテーションの後にグループに分かれ、ロールモデルからは、働く上での価値観ということで、様々な自分にはない意見だったり、有意義な考え方を学生に伝えていた。

保護者からの考え方が強く残ったままの進路を選択している子が多いという中で、身近なロールモデルに触れることによって、こういう考え方もあるんだなとまずは受けとめる人が多かったと思う。

ただ、取り組みの後、考えたのが、やはりもう少し若い世代の子、高校生にである。大学生に関しては、これになりたいというのが決まっている学生がいたり、決まってない学生もいるが、それを考えるのは高校というのがやはり大きいので市内の高校でそれが実現できるように頑張っている。

組織における新啓発事業については、リーフレットの配布ということで、QR コードであるとか、デジタル化に進んでいるのが正直なところで、若者も紙を受け取ってもなかなか目を通さないという現状は正直ある。

C 委 員 : 同じく、本人さんの意識というよりは、親御さんとの関係が男女共同参画とかダイバーシティとかには、結構影響してるなと感じることもある。その辺も一つポイントかなという感じはする。

D 委 員 : 男性の家事・育児参画促進講座は大変人気で、すごく真面目に家事に取り組

みたいという姿勢のある男性に参加していただいている。台所に立ちたいけど、そこに入りにくい、でも力になりたいっていう意見もあり、メモを取るほど、前のめりで参加していただいた方は満足できたのかなと思う。

身近にどこか関わりたい気持ちのある男性ってやっぱり多いのかなとは思いますが、どう関わったらいいのかわからないっていう方がやっぱり多いイメージがあるので、難しく考えずに、実践で感じてもらうのが一番である。女性と一緒に立ち位置で考えてもらえたらいいかなと思うので、そういった講座ができればいいと思う。

組織における男女共同参画啓発事業のリーフレットについては、ショート動画、SNS でジャンプ動画など、簡単に短く、キャッチーな啓発の動画が撮れたら皆さんの認知拡大になるのかなと思う。

A 委員： 企業して数年経過した女性に対してのワークショップについて、多分仕事を始めて2、3年したら雇用して、いろんな悩みが出てくる頃なのかなと思う。そういう方々を集めて、同じ悩みを共有して、専門的な方とかに個別で相談したり、セミナーしてもらうのもいいのかなと思う。

E 委員： アンコンシャスバイアス授業について、今年度も3校あるということだが、別に独自で開催する学校が1校あり、すごいと思う。長年ずっと続けてきた学校が、先生たちの意識が変わってきて、自分たちでやろうって思ったってことが素晴らしいことだと思い、こういうふうに各校でできるようになったらいいと思う。

男性の家事育児のセミナーについては、料理を作る前の準備だったり、買い物に行ってきたり、終わったらゴミを片付けて、洗い物をして綺麗にして終わるっていうような、料理前後の「名もなき家事」があるということを講座の中でお話しすると、気づきにはなると思うので、そういうのも入れていただければいいのかなと思う。

7年度実施の女性のデジタルリスティングセミナーのアンケートで、男女共同参画の理解度が64.7%と低いのはなぜか。

あと8年度事業の組織における男女共同参画啓発事業については、オールドボーイズネットワークの対象となる方たちは、紙媒体の方が見やすいんじゃないかと感じる。デジタルの方に移行はしていくものの、啓発する場合には、そのターゲットの人たちがデジタルが苦手であれば、紙媒体が必要なのかなっていうふうを感じる。

女性起業家育成支援に関しては、起業してから数年後の起業家さんたちの悩みは事業によって違うと思うので、例えば申し込みをするときに、どのようなことで悩んでるかをアンケートに入れてもらったら、皆さんが悩んでいるところが見えてくるんじゃないかと思う。そうすると、テーマが絞られてくるのではないかな。

事務局： AI やエクセルなどの技術的なスキルを学びたいと思って参加された方が多く、男女共同参画とデジタルスキルアップの部分が結びついていなかったと思っており、私共のお伝えする部分が不足していたところは反省点である。

F 委員： オールドボーイズネットワークは、今もほとんどの方は良いとか悪いとかではな

くて日常のコミュニケーションをやっているのが結果的にオールドボーイズネットワークを形成してしまっているというのが現実ではないかなというふうに思うので、特にそこに所属しない女性とか若い人とかあるいは外国人とか障害者の方とか、そういった方が締め出されてしまっているんだというのをみんな、多くの人々が理解するという意味での啓発が必要かなというふうに思う。

例えば何か喫煙所にポスターを貼るとか、そういう泥臭いやり方もありなのかなというふうに思うし、チラシもいいと思う。逆にショート動画も意外と最近是一年配の方もインターネットを見てたりするが、ただ認知されることが非常に重要であり、何かいい配布方法があればと思う。

女性起業家育成支援に関しては、今年度事業でセミナーを2、3回するというと、あまり時間がないと思うが、個人事業としてやっているケースと、株式会社のような形で登記して複数人雇用しているような状況だと、悩みとかがだいぶ変わってくると思うので、どちらに絞るか、決めなくていいのかなと思う。

D 委員：自分の所属団体も同じように、起業して数年の女性をターゲットに意見交換だったりをしようかっていう話もあったが、ターゲットが細かすぎると、人数が集まらないのではないかなという意見があった。

ターゲットを絞りすぎると集客の面だけでなく、本当にそういった人がいるのかという意見もあるが、実際に多分悩まれてる女性起業家さんはいらっしゃると思うので、どういうふうにしていくといいのかなというのを悩んでいるところでもある。

C 委員：個人事業主と言いながらフリーランスの方も割といらっしゃるなので、その形態を絞ると非常に難しくなる。だから自分は起業家と思ってたら起業家というぐらいに考えた方がよいと思う。

G 委員：起業に関しては、自分の団体ではここ数年副業が可能になり、例えばヨガインストラクターとかクラフトコーラを作ってる人がおり、もしこういうワークがあったらすごく興味があるだろうと思う。あと、起業に興味はあるけど、なかなか勇気が出ない方もいると聞くので、起業に必要なスキルを学べるセミナーがあれば、潜在的にニーズはたくさんあると思う。

お知らせの仕方として、そういう情報とかを集めようと思ったらやっぱり SNS が多いのかなと思う。

H 委員：自分の団体でも女性で、起業したいっていう声はあるが、営利目的の副業というのは禁止になっている。

学生が県外へ出ていくっていう観点からいうと、自分で何か考えを持ってやっていてもらいたい人を増やしたいっていう気持ちはやはりあるので、こういうセミナーであるとか、何かしらに出向いていくっていうのは一つの方法だと思う。

I 委員：経営者側としては、起業して2、3年たったときに、うまく事業が進んでいる進んでない関係なく、情報がどれだけ手に入れることができているのかなっていうことだと思う。

特に2、3年たって大きくしようと思ったときに、大切なのがやっぱり運営費用とか、そのときに支援機関がどのようなものを持っているとかそういう情報をお

渡しできるっていう窓口を見つけるための会議というか、そういうのもあったらいいのではないかなと思う。

J 委員： 私どもが所属しているっていう団体は、地域において、住民の皆さんが安心して暮らしていける活動をしていくことを目指してやっている。

私達はインターネットとか、チャットとか、言われてもわからない部分が多々あるので、わかるような方法で皆さん方に文書で出さなければ、無理なところが多々ある。

K 委員： やはり若い世代については SNS とかそういった動画とかも有効なのかなと私どもの地域密着した活動なんかは、そういったものも有効なのかなと思う。

L 委員： 女性起業家育成支援については、女性の起業支援の講座を何年かやっているような団体と共同して行って、まずそこでどういったところで困りごとがあるのかっていうのを拾ってから、多分あまり言うほど共通してない可能性もあるのかなすごく個々の悩みというか、個々の困りごとだったりするかもしれないのでそうなってくると、ワークショップとかよりも本当に専門家に繋げていくような形にちょっとなるのかなと思う。セミナーに以前、いろんなところで講座を受講して起業するとか、起業とまではいかなくても何かの形で活躍されてる方に、ロールモデルとして、そのセミナーの最後とかにみんなにこんな形で私やってますみたいなのを、セミナーの最後に入れることによって、その後にされた方集めて意見交換をするとか、何かちょっとそういうのもいいのかなと思う。

M 委員： オールドボーイズネットワークって、現代社会規範みたいに捉えたら起こらないだろうっていうのはわかりつつ、一方で、男性として仕事現場とかにいるとあるかなと思う。飲み会の 2 次会で仕事の話もあるみたいなのは、典型だと思う。

行動は変わらないというのが問題で、啓発をすることで、政策的にやったよってことは多分言えるけど、その本質改善みたいなことになると、そのオールドボーイズネットワークの心地よさみたいなものがあってしまうがゆえに難しいかなと思う。言い続けることが大事なんだろうっていう話に立つならば、その情報発信とかどうやって認知してるかの話にしかない。

情報発信のあり方みたいなのは抜本的に見直していいんじゃないかなとか思う。男女共同の政策とかを若い人目線で特化して発信する SNS メディアとかを持つのが役に立つのかなと思う。

女性起業家育成支援については、経済団体の合同説明などを市役所が実施してくれたら行くのかなと思う。

逆に起業された人と何年かたった人たちが何に困っていて、どれぐらい人数がいてということ把握されてないっていう状態で、そこに向けて政策を打つっていうのは結構厳しい気がするので、すでに取り組んでいる団体とかと組んでするのがいいと思う。